# 第三者意見•審查報告

信頼性を高めるとともに、社会の期待に応えるレポートとするため、第三者意見・審査をいただきました。

# 第三者意見



水尾 順一氏

駿河台大学名誉教授・博士(経営学)

一般社団法人日本コンプライアンス&ガバナンス研究所代表理事/会長

(株) 資生堂から、駿河台大学教授・経済研究所長等を経て2018年3月末退職、現在に至る。(株) ダイセル社外監査役。2010年ロンドン大学客員研究員他。 著書 『サスティナブル・カンパニー~「ずーっと」 栄える会社の事業構想』 (株) 宣伝会議など名数

オカムラグループ (以下、同社) のSustainability Report 2021 について、企業でCSRの実務を推進し、大学とその後の研究所でもその理論構築を通じて「CSRの理論と実践の融合」を促進してきた立場から、以下に第三者意見を申し述べます。

#### 高く評価できる点:

#### 「ステークホルダーを活き活きさせる"場"」の創造を理解することができます。

同社が掲げる4つの重点課題は、人が活きる環境(消費者、取引先)、従業員の働きがい、地球環境、さらには、責任ある企業活動(株主・投資家)が4つの分野で示されています。見方を変えてこれらを一言でいえば「ステークホルダーを活き活きとさせる場」と理解することができます。

当レポートではこれらの項目について、サステナビリティ方針と中期目標をそれぞれ明確にすると共に、SDGsの17の目標との紐づけも行い、KPIにもとづく計画と実績を明らかにしています。その上に立ち、4つの重点課題への具体的取組結果と今後の課題が明確にされており、SDGsへの取り組みと同社のサステナビリティ行動計画が一体化されていることがよく理解されます。

### 事業と一体化したSDGsが「見える化」 されています。

同社が現在提案し、また自らが実践している「働き方改革」は、現在のコロナ禍においてテレワークやサテライトオフィスのあり方、さらにはよりよく生きるためのオフィス空間や仕事場、働く環境の提案など、組織の課題解決に深くかかわりを持っています。

またこれらに関連する同社のものづくりは、木材などの素材・資源の有効活用や、温室効果ガスの削減などとも関連していることから、同社は2050年100%削減の「カーボンニュートラル宣言」を発し先進的な取り組

みを進めています。

こうした取り組みは、SDGsの実践であると同時に、同社のビジネスそのものということができますが、当レポートにてその状況が十分に見える化されており、同社の事業と一体化したSDGsを知ることができます。

#### 今後に期待する点:

#### SDGsを成功に導く「オカムラグループのペンタゴン・モデル」を提言します。

Sustainability Report 2021では、見える化された「同社の事業と一体化されたSDGs」について、今後はその先、たとえば2050年を見据えた「2050年のSDGs、わが社のありたい姿」が提示されることを期待します。

すでにE(環境) についてはカーボンニュートラル宣言を発し、2030年50%削減のロードマップも示しています。今後は、SDGsとESGにかかわる他の項目S(社会:特に社外との関係)、G(ガバナンス)、W(働き方:特に社内でのワークスタイル) に加えて、SDGsとESGにない企業経営の根幹としてのビジネスの視点B(事業計画や事業構造など) も含めた5つの視点から「ありたい姿」を明示されることを期待します。

その結果、ESGWBによる正5角形を描き、SDGsを成功に導く「オカムラグループのペンタゴン・モデル」(※ペンタゴンとは米国国防総省の5角形の建物を指します)として、それぞれの項目でありたい姿を見える化できれば、従業員を含めたステークホルダーに夢や希望を与えることができます。その上で環境と同じように、2030年のロードマップを示すことで目標がさらに明確になると考えます。

これは、ESGをさらに一歩進めた企業経営の基盤となる新たな概念であり、従業員が目標に向かって全社一体となって進むことができる求心力のあるビジネス・モデルといえます。ペンタゴン・モデルをとおして同社の持続可能な発展に結び付くことを祈念してやみません。

## 第三者意見を受けて

「オカムラグループ Sustainability Report 2021」の発行にあたって、多くの分野のステークホルダーの皆様より貴重なご意見を多数いただき、それらのご意見を参考にした上で、持続可能な社会の構築に向けた、当社グループの取り組みを報告させていただきました。

水尾先生には、ご専門のお立場から忌憚のないご意見を頂戴し、御礼を申し上げます。

昨年ご指摘いただいた内容への対応を踏まえ、当社の取り組みの進展に対して評価いただくとともに、新しい考え方の「ペンタゴン・モデル」の提言をいただきました。

この内容は、サステナビリティの活動をさらに進めた経営の基盤となる新しい概念であり、当社にとって次のステージへの重要なご意見として認識し、取り組みへの反映に努めてまいります。

今後も、「豊かな発想と確かな品質で、人が活きる環境づくりを通して、社会に貢献する。」をミッションとして、中期経営計画を推進すると共に、さまざまな社会課題の解決に向け、本業を通じて着実に、持続可能な社会の実現に貢献していきたいと考えております。

執行役員 佐藤 喜一

# 第三者審查報告

環境パフォーマンスデータ 第三者レビュー報告



2021年6月11日

株式会社 オカムラ 御中

ピューローベリタスジャパン株式会社 システム認証事業本部

ビューローベリタスジャパン株式会社(以下、BV という)は、株式会社オカムラ(以下、オカムラという)の責任において作成されたオカムラグループ Sustainability Report 2021 に記載される、2020 年度環境パフォーマンスデータのうちオカムラの指定した項目のレビューを実施した。BV の責任は、環境パフォーマンスデータについて独立の立場からレビューし、その結果を報告することであり、検証を目的とするものではない。

## レビューの概要

BVは、オカムラとの合意に基づき、以下のレビューを実施した。

オカムラ本社・環境マネジメント室において

- オカムラ EMS グループ事務局における環境パフォーマンスデータに関するマネジメントシステムの 信頼性
- · Sustainability Report に記載された情報の適切性

## 御殿場事業所において

- 2020年4月から2021年3月にかけてオカムラEMSグループ事務局に対して報告された環境パフォーマンスデータ
- ・ 御殿場事業所における環境パフォーマンスデータに関するマネジメントシステムの信頼性

## レビュー項目

- ・ 総エネルギー投入量、エネルギー起源 CO2 排出量
- 廃棄物排出量と再資源化量、最終処分量
- · 水資源投入量、総排水量、BOD/COD排出量
- · PRTR 対象物質取扱量·排出量·移動量
- · NOx、SOx排出量

## レビューの結果

- 1. グループ内の各サイトからオカムラ EMS グループ事務局へ報告されたデータに、いくつかの軽微な誤りが発見されたが全て修正された。
- 2. オカムラグループ Sustainability Report 2021 に記載された環境パフォーマンスデータと、オカムラ EMS グループ事務局が収集したデータとの間に、矛盾する内容は認められなかった。

以上